



スーパーサブの誇り

園の上空が、やけに騒がしかった。何事かと窓越しに見上げた空には、複数のヘリコプターが旋回。目を地上に戻すと、土曜日というのに、園前の人通りが多くなっていることにも気がついた。

そしてこの日、色とりどりのたくさん自転車が、あのニュータウン通りを、猛スピードで駆け抜けていったのだ。新型コロナウィルス感染の再拡大それに伴う開催への賛否、関係者の相次ぐ辞任：そんな周辺の出来事に気を取られていたせいも、実感が湧かなかつたのだが、この日の騒動でようやく感じることもできた：国民の複雑な思いも抱き込みながら、オリンピックは幕を開けたのだ。

先日の開会式の選手入場の場面では、数々の和製コンピュータゲームのBG



Mが次々と流れ(私には出だしの一曲目しかわからなかったが...)、そして、選手団の持つプラカードの国名は、漫画に使う「吹き出し」の中に記されていた。コンピュータゲームにも、漫画にとどって、日本のサブカルチャーの世界的な認知度を、あらためて感じた瞬間であった。なるほど、あの鬼退治を描いた作品の、世界的なヒットも頷ける。

さて、Eテレで夜遅くに放送されている「漫勉」というテレビ番組をご存知だろうか。漫画家の浦沢直樹氏がプレゼンターを務め、ゲスト漫画家の制作過程を追うドキュメンタリー。事前に録画をしたゲスト漫画家が作業場で制作する映像を見ながら、本人と浦沢氏が、互いの制作手法の違いや共通点などをざっくばらんに、ただただ語り合う形で進行する。何を隠そう、私はこの番組については、そこそ熱

気がしてならない。

先の「漫勉」という番組タイトルの由来は、「漫画ばかり読んでないで、勉強しなさい」って、よく言われたよね...の略だと聞いたことがある。それまで私は、「漫画のお勉強」という意味だとばかり思っていた。

もしかや、「漫画を勉強しているのですが、何か?」という、あの子ども時代には、うまく切り返すことができなかった「勉強しなさい」への本当の答えを、このタイトルに込めているのかもしれない。



園長 折井誠司

作者一人だけの作業場に、唯一響く、ペン先と紙がシャツシャツと擦れる音が、また心地よい。
1ページに数時間、時には一コマを何十回と書き直すという彼らのこだわりについて、二人の漫画家が交わす言葉は、漫画という表現をそれぞれに突き詰めようとする情熱と、時に哲学的な響きさえ帯びてくるの



今回の五輪テーマは「多様性と調和」。子どもたちを含めた世代と世代の間こそ、それが問われている。

- 編集 幼保連携型認定こども園せいび
- 発行人 折井 誠司
- 印刷所 幼保連携型認定こども園せいび
- 発行所 社会福祉法人 誠美福祉会

〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2
電話 042-675-1551
ファックス 042-677-5643
E-mail seibi@kodonomokyo.jp
http://kodonomokyo.jp